



第10回横浜シーサイドトライアスロン大会

競技運営も自然との闘い、想定外への対処です

審判長 糊澤 信



季節柄、台風の襲来に翻弄されることの多い横浜シーサイドトライアスロンも今年で10回目を迎えました。前年も台風の接近と朝の雨の影響でコースを変更して開催されましたが、今年も直前に上陸した台風の影響で、護岸が崩れるなど会場も大きな被害を受け、開催が危ぶまれました。会場復旧などへの関係各位の努力のおかげもあり何とか開催にこぎつけました。ただし、被害の影響でランコースの一部変更、スイムアップからトランジションまでもルートが変更となり、その区間は路面が滑りやすい

ため走行禁止、さらに時計を止めるというルール変更がありました。TOは当日の天候や路面状況まで含めて、刻々と変化する自然環境に対応して、臨機応変に対応することが求められることを強く感じました。

また、今年より従来のスイム400mの一般カテゴリーに加え、スプリントディスタンスのカテゴリーが新設され、アクアスロンも含め9つのカテゴリーでコースが周回数やコースも刻々変わっていくという複雑なオペレーション、スイムでの試泳や万全の監視体制など、歴史とともに進化してきた高度な運用確立されており、経験豊富なTO、ボランティアのスキルも合わせて運用のレベルが高い大会であると考えます。

一方、本大会はトライアスロンデビューからスプリントまでと、比較的経験の浅い選手が多く集まります。レース途中の選手が勝手に離脱して行方不明になるなど、想定外のことがしばしば起こります。想定外にも対処しつつ、公正さと安全に加え、これからトライアスロンを始めていこうという人たちを温かく迎え、底辺を拡大していくのもこの大会のTOの大きな役割であると考えます。